

# 北海道高性能林業機械化推進協議会（第1回）議事概要

## 1 日時及び場所

令和元年（2019年）6月7日（金）14:00～17:00  
道庁別館西棟3階1号会議室

## 2 出席者

＜構成員：17名＞

国立研究開発法人森林総合研究所北海道支所 佐々木研究専門員、  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 対馬森林経営部長、  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 渡辺主任主査（経営）、  
株式会社諸岡北海道営業所 進藤所長、コベルコ建機日本株式会社北海道支社 玉井支社長、  
大澤木材株式会社 大澤代表取締役社長、株式会社イワクラ林材部苫小牧出張所 大宮副支店長、  
堀川林業株式会社 高篠代表取締役社長、千歳林業株式会社 栃木代表取締役社長、  
北海道森林組合連合会 遠藤指導部長、北海道素材生産業協同組合連合会 工藤専務理事、  
林野庁北海道森林管理局 西浦課長補佐、林業木材課 加納林業振興担当課長、  
林業木材課 立原主幹、森林計画課 佐川主幹、森林整備課 小南主幹、道有林課 佐藤主幹

＜オブザーバー：2名＞

一般社団法人北海道林業機械化協会 藤八事務局長、  
株式会社筑水キャニコム札幌事務所 熊崎所長

＜事務局：7名＞

林業木材課 村下主幹ほか

## 3 議事

### (1) 「北海道高性能林業機械化基本方針」の改定について

基本方針改定の趣旨、基本方針の内容、スケジュールなどについて意見交換。

### (2) 北海道の森林・林業の現状と課題について

北海道の森林資源の概要、林業・林業労働の動向、高性能林業機械の現況について意見交換。

（構成員・オブザーバーの主な発言）

- ・高性能林業機械の平均稼働状況については、稼働日数ではなく、稼働時間で算出する必要がある。
- ・林業労働の動向については、事業体数の推移だけではなく、労働者数の推移についても併せて考えていく必要がある。

### (3) 北海道における高性能林業機械化を推進するための検討方向について

高性能林業機械の推進をしていく上で現状において課題となっている、又は今後課題となることが想定される事項について意見交換。

（構成員の主な発言）

- ・全道的に主伐期の林分が増えてきたことにより機械の大型化が必要である。
- ・機械の大型化にあたって、機械の大きさ・重量と路網の規格が合わなくなってしまうため、路網の規格についても併せて検討する必要がある。
- ・人力での伐採作業中に事故が起こることが多いので、天然林の伐採ができる高性能林業機械の開発が進んで欲しい。
- ・林業機械は維持・管理費が高いため、経営的に厳しい。
- ・林業機械の燃料を配達してくれる業者やスタンドが減ってきていることを危惧している。
- ・造林業界では人材不足が大きな問題となっているため、造林分野での機械化を進めるべき。
- ・人材不足なので新規参入者を増やすために林業のPRを進めていく必要がある。
- ・北海道の林業に就職してくれた新規参入者が将来にわたって道内で働いてもらうためには、どのように育成していくべきか検討する必要がある。
- ・今後は造林保育・造材の分野で機械化が進んでいくことを踏まえて、植栽幅から考えていく必要がある。
- ・造林保育の機械化については、コンテナ苗がありきでの話になると思われる。
- ・ICT技術については農業が一番活用できているため、林業も見習っていくべきである。

### (4) 北海道高性能林業機械現況調査の実施内容について

北海道高性能林業機械現況調査の調査項目について意見交換。

（構成員の主な発言）

- ・架線系の林業機械については使用している事業体も少ないことから、今後の機械化の展望を把握するためにも、実際に使用している事業体へ聞き取りを行う必要がある。